第１回 組織活性化委員会 議事録

共有用　個別の意見・事例は匿名化し、役職者の選任事項は実名で記載

開催日　2026 年 10 月 28 日

１．委員会の目的・運営

・各区・単位 PTA の状況や事例を共有し、組織のあり方、市・区・単位 PTA の役割と連携について検討する。課題と現在の取り組みの双方を取り上げる。

・原則月１回、90 分～2 時間程度の開催を想定し、2027 年 6 月を目途に検討結果と提案をまとめる。

・家村会長と山家会長が副委員長として選出され、承認された。

２．共有された意見・事例

（1）「活性化」の意味と PTA の存在意義

「PTA に唯一の正解はない」「活性化とは何か」との問いが出された。コロナ禍以降、活動の縮小や PTA 自体のあり方を見直す声がある一方、新たな活動を始めたいという意見もあった。活動の拡大だけでなく、現状維持や簡素化を含めて考える必要があるとの意見があった。

（2）活動への温度差と現状把握

活性化を望まない人にとって、活性化を前提とする議論は必ずしも意味を持たないとの指摘があった。活動の拡大を望む意見だけでなく、現状維持・縮小を望む意見とその背景も把握する必要があるとの意見があった。地域の人口構成や人の入れ替わりなど、地域性の違いも紹介された。

（3）事業の固定化と活動の選択

従来の行事を続けることが負担になる場合があり、担当校がその年に取り組みたい活動を選べるよう見直した事例が紹介された。バレーボール大会等の既存行事を実施している事例も挙がった。

（4）予算・余剰金の扱い

活動資金の確保・活用や余剰金の処理が課題として挙がった。予算を使い切るほど事業を行う状況がある一方、繰越金があっても新しい事業を望むとは限らず、予算規模の見直しも選択肢として示された。

（5）役員・ボランティアの確保

役員募集やボランティアの確保が難しく、会長を引き受ける人が少ないという声があった。一方、役員数を確保できている組織でも、判断や相談が一部に集中する課題が紹介された。

（6）役割分担と運営体制

役員の人数だけでなく、担当する業務や判断の範囲を整理する必要があるとの意見があった。少人数での運営、役員が多い場合の運営、それぞれに異なる課題がある。

（7）単年度運営と複数年の計画
1 年目は現状把握や企画検討で手いっぱいになることがあり、1 年目に計画、2 年目に実施する運営事例が紹介された。行事の集中や学校行事との重なり、前年度担当者との連携も話題になった。

（8）引き継ぎと継続性
新しい事業が次の担当者の負担になる懸念が出された。特定の役員の人脈や力量に依存しない方法として、ノウハウの共有や学校支援地域本部・地域団体との役割分担が紹介された。PTA が直接の運営主体にならない形を採る事例もあった。

（9）会長・役員同士の相談と交流
会長の孤立感や、交流の場で相談相手が見つかる意義が語られた。会長以外の副会長・会計・監査等にも、学校を越えて同じ立場で相談できる機会が必要との意見があった。懇親会やグループ LINE の活用例も挙がった。

（10）学校間・地域間の連携
近隣校が継続して情報交換する事例が紹介された。他校の取り組みを参考にし、自校の地域性や担い手に合わせて取り入れることが重要との意見があった。学校同士の横のつながりを大切にしたいとの声もあった。

（11）市・区・単位 PTA の役割
市・区の組織が単位 PTA とどう関わっているのか分かりにくいという声があった。区の存在意義や役割、輪番・当番校の負担についても問題提起があった。次の担い手に引き継ぎやすい「軽い神輿」という表現も用いられた。

（12）事業・予算情報の一覧化
他区・他校の事業内容、予算規模、準備の進め方が分かる一覧があれば、活動を検討しやすいという意見があった。隣接する地域の行事も把握できていない状況が紹介された。

（13）事例のデータベース化
どこで何を行っているかを検索でき、必要に応じて関係者へ相談できるデータベースが提案された。情報を掲載するだけでなく、交流会・研修会の案内や参加申し込みにもつなげる案が出された。

（14）役員以外への情報発信と参加
若い世代から PTA の仕組みが分かりにくいという声が紹介された。役員だけでなく一般の保護者や地域住民にも活動情報を届け、参加のきっかけをつくる案が示された。

（15）学校のニーズに応じた活動
学校からの依頼に応じて、安全面の支援やあいさつ運動などを行う事例があった。PTA からの働きかけが町内会等との協力に広がった例も紹介された。

（16）子ども主体の企画と保護者の学び

子どもの企画・活動を PTA が資金面で支え、地域の店舗・団体が協力する事例が紹介された。企画、集客、目標設定、振り返りを学びにつなげる考え方や、PTA 自体を保護者の学びの場とする意見があった。賛同と反対の双方があることも共有された。

（17）地域団体・外部との役割分担

おやじの会などの地域団体や保護者有志、外部への委託を活用する考え方が示された。PTA が直接実施する以外に、資金面から支援する形も話題になった。海外の例として、PTA がスポンサー的役割を担うという発言もあった。

（18）活動への参加意欲と継続

活動を楽しむ姿が次の参加者につながるという事例や、活動する人のモチベーション維持が課題になるという意見があった。学校規模や小・中学校の違いによって適する方法が異なることも指摘された。

3．今後の検討に向けて出された論点

活性化の意味や目的、活動の拡大・維持・縮小に対する考え方、役員負担と継続性、相談・情報共有の仕組み、市・区・単位 PTA と地域の役割分担など、複数の方向から意見が出された。

※これらは論点の整理であり、委員会として特定の方向性に合意したことを意味していない。

4．確認事項・今後の対応

・アンケートを実施する方向となった。対象・設問・方法は次回検討する。保護者等の PTA 側に加え、校長等の学校側の考えも把握する方向が示された。

・各委員は、次回までにアンケート項目案と今後取り上げたい論点を考える。

・調査・集計を 2026 年内、中間報告を 2027 年 2 月の会長研修会等とする案が示された。具体的な日程は今後調整する。

・連絡・意見交換用のグループ LINE を作成した。次回のテーマは委員長・事務局で整理し、開催案内に記載する。懇親会も企画予定。

・第 4 回までは配布資料の日程を基本とし、2027 年 6 月を目途に検討結果と提案をまとめる。

※記録上の留意事項

本資料は、音声から作成した議事録案と会議中のメモをもとに、個別の意見・事例について発言者や所属が特定されにくいよう、論点別に再構成した共有用の議事録案です。発言の逐語録ではなく、個別の意見・事例は委員会の決定や全体の合意を示すものではありません。特徴的な固有名詞は一部一般化しています。役職者の選任事項は実名で記載しています。参加者につきましては配布資料をご確認ください。開催時刻・会場・次回日程等は、配布資料や後日の連絡等でご確認をお願いします。